

4月1日から、大津商工会議所会頭の大役を務めさせていただくことになりました。慣例により、同時に県下7商工会議所連合会会長もお引き受けすることになります。もとより微力であり、商工会議所活動についても経験不足でございますが、諸先輩が築かれた基盤を受け継ぎ、商工業振興・発展のため全力を尽くす所存でございます。

新年度早々から明るい話題が相次いでいます。4月1日の「新名神高速道路の完全開通を求める会議」で、2003年に凍結された大津―城陽間(25.1km)と八幡―高槻間(10.7km)について前田国土交通相が「今月中にも着工したい」と述べられ、国土交通省から6日に正式に発表されました。

利便性の向上や渋滞の緩和、名神の改修期間の代替道路として、また、災害に対する備えとして、沿線の自治体、住民、経済界の大勢が待望していた事業の再開です。大いに歓迎するところであり、京阪神と東海地区の中間に位置する滋賀の存在を更に高める絶好のステップ台として参りたいと考えます。

4月6日には、11月に京都市内で開催予定の「世界遺産条約採択40周年記念最終会合」

ビジネストーク

「広域連携」

滋賀銀行頭取 大道良夫



(ユネスコ主催)に向け、「記念事業京都実行委員会」が設立されました。同委員会は、世界遺産に指定された17の寺社や城がある京都、宇治、大津の3市長と京都府、滋賀県の両知事、経済界のトップで構成されます。京都市、宇治市など各自治体、団体が力を合わせて京滋地区の世界遺産の魅力を世界に発信したいと夢がふくらみます。

6月には、関西2府4県の商工会議所が連携して、中国の上海、広州で広域観光の誘客プロモーションを実施します。府県を越えて広域観光ツアーの海外誘客事業に取り組むのは初めての試みです。

大津商工会議所では、琵琶湖を前面に打ち出し、湖上遊覧やスキー、温泉が楽しめる豊かな自然、近江牛や鮎ずしなどの地産食品を大いにアピール、中国をはじめとする海外からの観光客誘致に全力を注ぎます。

地域の商工業を振興し、地域を元気にしたいとの願いは、まさに商工会議所も私どもの銀行も同じであり、横に広がる連携により新たな展開ができればと期待しております。

皆さまのご指導、ご支援をよろしくお願い申し上げます。